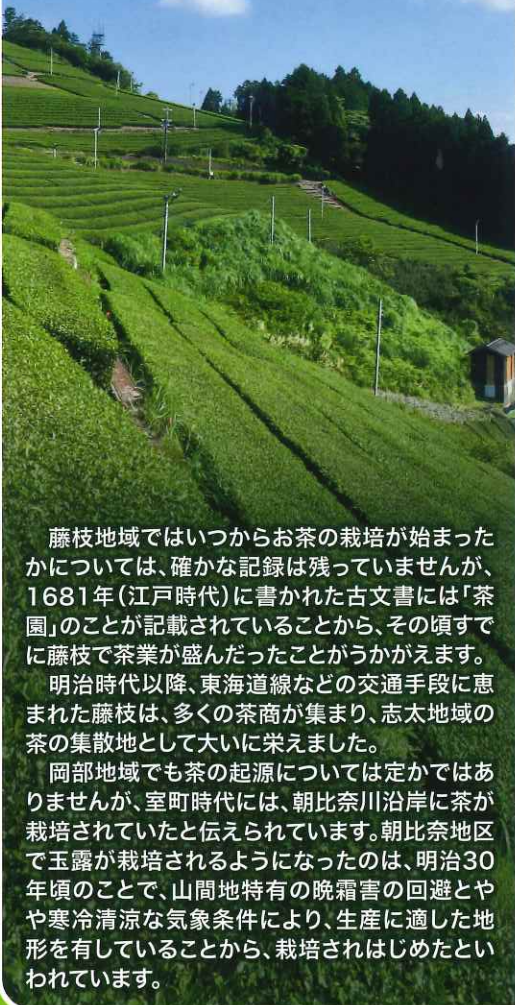




お茶のまち藤枝



藤枝地域ではいつからお茶の栽培が始まったかについては、確かな記録は残っていませんが、1681年(江戸時代)に書かれた古文書には「茶園」のことが記載されていることから、その頃すでに藤枝で茶業が盛んだったことがうかがえます。明治時代以降、東海道線などの交通手段に恵まれた藤枝は、多くの茶商が集まり、志太地域の茶の集散地として大いに栄えました。岡部地域でも茶の起源については定かではありませんが、室町時代には、朝比奈川沿岸に茶が栽培されていたと伝えられています。朝比奈地区で玉露が栽培されるようになったのは、明治30年頃のことです。山間地特有の晩霜害の回避とやや寒冷清涼な気象条件により、生産に適した地形を有していることから、栽培されはじめたといわれています。

藤枝のお茶

藤枝市は、昔から香り高い銘茶の産地として知られていました。その秘密は、恵まれた自然にあります。瀬戸川や朝比奈川などの清流がつくった山間の土地は、水はけが良く、昼夜の温度差と天然の地力により、香気豊かなお茶が育ちます。伝統と豊かな自然が育んだ藤枝のお茶は、その確かな味と香りで各地の品評会で数々の賞を受賞しています。



※藤枝大茶樹、樹齢300年以上。足場を組んでのお茶摘み。(藤枝市久保地区)

お茶の紹介

【藤枝茶3姉妹】

・藤枝かおり

香りの強い品種「印雑131」と優良品種「やぶきた」を交配して誕生した、茶産地藤枝から生まれたお茶です。香りをさらに引き立たせるために萎凋(いちょう)作業を行います。ジャスミンのような香り、透明感のある淡い黄金色、まるやかなうま味に加えたやさしい渋味が特徴です。渋味がクッキーやケーキなどのまったりとした甘味をなくし、さわやかな香りを残すので、洋菓子とよく合います。

・藤枝めぐみ

平成20年に誕生した藤枝のブランド茶です。品質に定評がある荒茶工場の荒茶を使用し、茶師が匠の技で仕上げた煎茶を審査により選ばれてきたお茶。

・藤枝くれは

藤枝かおりの茶葉から生まれた和紅茶。



【藤枝一香】

種類/煎茶

土作りから施肥まで、こだわって育てた幼木の茶葉を浅く蒸しました。

希少な幼木茶ならではの透明感、香り高く深い味わいが楽しめます。

「一香」の文字には、日本一のお茶を目指す思いが込められています。

ギフト用の箱入りと一煎茶パックがあります。



ぎょくろ

【朝比奈玉露】

清流が織り成す自然の中で丹念に育てられた最上級茶です。

お茶の新芽が出始めた頃、茶園全体をワラで作ったコモなどで覆って3週間程度、太陽の光をさえぎり、育てたお茶です。このようにすることで渋味を抑え、うま味成分を豊富にすることができます。コストと手間がかかる上、生産量も少なく、大変高価で貴重なお茶です。藤枝市岡部町は、宇治(京都)、八女(福岡)に次ぐ玉露の産地として有名です。



てんちゃ

【かぶせ茶・碾茶】

かぶせ茶は、玉露と煎茶の間に位置するお茶です。茶園に覆いを被せる期間は玉露よりも短くなります。碾茶は抹茶の原料となるお茶です。玉露と同じように栽培され、お茶の葉を揉まずに乾燥させます。



※コモ(藁:マコモを粗く編んだもの)でお茶の樹を覆って直射日光が当たるのを避け、お茶本来の旨みを引き出している玉露茶園。

お茶の効能

①カテキン (渋味・苦味成分)

強い抗酸化作用があり、動脈硬化、がん、高血圧など最近増えている生活習慣病の予防に効果があります。殺菌作用も強く、食中毒の予防にもなります。

②カフェイン (苦味成分)

眠気をさましたり、脳や心臓の働きを活性化させる効果があります。

③テアニン (アミノ酸/ 甘味・うま味成分)

心と体をリラックスさせる癒しの効果があります。お茶に特有の成分でコーヒーやココアには含まれていません。

④ビタミンC

かぜを予防するのに必要な成分です。美容の点からも、肌に弾力を与える等の効果があります。

